

第5学年 道徳学習指導案

1組 計33人(男子15人, 女子18人)

指導者 中野嘉宣

- 1 主題名 親切にするとは(2-(2) 思いやり・親切)
資料名「思いもよらぬできごと」(学研教育みらい5年)

2 主題について

(1) 内容項目とその系統

【低学年2-(2)】
幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し, 親切にする。

【中学年2-(2)】
相手のことを思いやり, 進んで親切にする。

【高学年2-(2)】
だれに対しても思いやりの心を持ち, 相手の立場に立って親切にする。

【中学校2-(2)】
温かい人間愛の精神を深め, 他の人々に対し思いやりの心をもつ。

(2) 指導内容についての基本的な立場

思いやりとは, 他人の痛み, 悲しみ, つらさなど相手の立場を推し量り, 自分の思いを相手に向けることである。親切とは, 励ましたり, 慰めたり, 助けたりしたいという思いやりの心から出た行為である。ここでは, 思いやりの心をもって相手に親切にすることで, 互いに気持ちを通じ合うことを理解し, 相手の立場に立ち親切にしていこうとするための大切な考え方を身に付けていくこととなる。

この期の子どもたちは, 友達に自発的に温かい心をもって, 親切に接していこうと努力してきている。しかし, 自己中心的な考えや労苦からの逃避などの心の弱さから, だれに対しても親切にしていこうとできないことがある。それらの弱い心と望ましい生き方を目指す心との間に起こる葛藤を乗り越えていくためには, 相手のためになるのかよく考えながら, 自分のことのように受け止めていくなどの心構えが大切であることを伝えていく必要がある。

そこで, 本主題では, 相手の現在の状況や困っていることなどを想像し親切にすることで, 相手の立場に立つことのよさを理解できるようにする。また, どのように接し, 対処することが相手にとってよいか十分に考慮することの大切さに気付くことができるようにする。これらのことにより, 自分と関わる全ての人に思いやりの心を持ち, 親切な行為を広げていこうとする態度を育てる。

(3) 本主題の指導内容および道徳的価値の構造

第5学年及び第6学年

だれに対しても思いやりの心を持ち, 相手の立場に立って親切にしようとする態度を育てる。

道徳的実践を支える考え方や感じ方

対 自 分	ア 相手の立場に立って気持ちがいい。(自己の快感) イ 思いやりのある人になれる。(自己の成長) ウ 親切にできることが増える。(価値ある行為の増加)
対 他 者	エ 相手が喜んでくれる。(他者の快い感情) オ 自分を助けてくれる人に感謝する。(他者への感謝) カ 相手のことが理解できる。(他者の理解)
対 社 会	キ みんなが気持ちよくなる。(人間関係の向上) ク みんなを大切にする社会ができる。(望ましい社会の形成) ケ 互いに助け合う社会が築ける。(魅力ある社会の実現)

三面性

実践を阻む要因

- a 自分本位な考え(自分さえよければいい)
- b 労苦からの逃避(きつい, 楽をしたい)
- c 奉仕精神の欠如(見返りがほしい)
- d 他への欲求(他にもすることがある)
- e 思慮不足(よく考えていない)
- f 無関心(自分には関係ない)



心構え

- ①相手のためになる(利他) ②相手の気持ちや立場に立てる(思いやり)
③相手を理解しようと努める(理解) ④自分のこととして考えられる(自分事) ⑤よく考えて行動できる(思慮)
⑥進んで行おうと思える(自主性) ⑦勇気を持ち行動できる(勇気) ⑧共に支え合おうとする気持ちになる(共生)

(4) 本主題に関連する体験活動等

【事前】	【事後】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習活動 (互いのために進んで学び合っていたか) ○ 委員会活動 (友達のために進んで活動していたか) ○ 妙円寺遠行 (友達のために進んで励ましていたか) ○ 運動会 (友達のために思いやりをもって活動していたか) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習活動 (互いのために学び合うことができるか) ○ 家庭・地域生活 (相手のために親切にできるか) ○ 仲よし清掃 (下学年の子のために教えることができるか) ○ 城山登山競走大会 (友達のために激励できるか)
【本時】	
(経験の想起) → 11月 「親切にするとほ」[2-(2) 思いやり・親切] 『思いもよらぬできごと』 ※相手のためになる (利他) → (よりよい生き方を目指した行動)	
【本時と関連する道徳の時間】	
6月 「豊かな思いやりとは」[2-(2) 思いやり・親切] 『台湾からの転入生』 ※相手を理解しようと努める (理解) ※は、重点化を 9月 「あなたのために」[2-(2) 思いやり・親切] 図る考え 『最後のおくり物 (私たちの道徳)』 ※相手の気持ちや立場に立てる (思いやり)	

3 子どもの実態

(調査人数 33人 重複あり 平成26年9月18日)

(1) 本主題に関する経験場面①

親切にすることができた経験	人数
・ 困ったり、悩んだりしている人を助けた	15
・ 電車やバスで席を高齢者の方に譲った	7
・ 手伝い (荷物運び、片付け) を進んでした	4
・ 怪我をした人を家や保健室に連れて行った	3
・ 学習道具を忘れていた友達に貸した	2
・ 道や場所を詳しく分からない人に教えた	2

(2) 本主題に関する経験時の気持ち①

親切にすることができた時の気持ち	人数
・ いい気持ち、うれしい、満足	12
・ すっきりした	7
・ 心が温かくなった	6
・ 少しでも役に立ててよかった	5
・ かわいそう、心配	3
・ 思いやり	3

(3) 本主題に関する経験場面②

親切にすることができなかった経験	人数
・ 困っている人を助けることができなかった	19
・ 悪口を言っている人を注意できなかった	5
・ 手伝い (荷物、夕食) ができなかった	4
・ 席を譲らなかつた	3
・ 道を教えてあげられなかつた	2
・ 見て見ぬふりをした (泣いている人、怪我等)	2

(4) 本主題に関する経験の理由②

親切にすることができなかった理由	人数
・ 気分がよくなかつたから、怒っていたから	10
・ 自分のことに夢中だったから	8
・ 疲れていたから、面倒だったから	7
・ 忙しかつたから、時間に遅れそうだったから	6
・ 自分には関係ないと思つたから	4
・ 怖かつたり、恥ずかしかつたりしたから	1

(5) 道徳的価値の意義

親切にするとどんなよいことがあるか	人数
・ お礼や感謝される、ありがとうと言われる	12
・ 親切にした人、された人互いに気持ちがいい	8
・ 自分も助けてもらえる、後からいいことが起きる	5
・ 自分がいい気持ちになれる	5
・ 相手が喜んでくれる、笑顔が増える	4
・ 自分も周りも気持ちよく生活できる	1

(6) 道徳的価値に対する心構え

親切にするためにどんな考えをもつか	人数
・ だれにでも優しい気持ちをもつ	11
・ 親切にしようとする気持ち、思いやりの気持ち	10
・ よい行いは自分に返ってくる	4
・ 相手のことを考える、相手も自分もいい気持ち	4
・ 素直な気持ち、勇気をもつ、落ち着く	3
・ みんなで助け合う心	1

(1)から、親切にすることができた経験には、「困ったり、悩んだりしている人を助けた」が多数あり、全ての子どもが家庭や学校の様々な場面で経験をしていることが分かる。(2)から、親切にできた時の気持ちとして、「いい気持ち」「すっきりした」という子どもが多く、親切にできた満足感や成就感を十分味わっていることが分かる。(3)から、親切にできなかった経験では、友達や家庭、地域社会での場面で多様にあることが分かる。(4)から、親切にできなかった理由としては、「気分がよくなかつた、怒っていた」「自分のことに夢中だった」等があり、その時の自分自身の感情や状況次第で親切にできない場合もあることが分かる。(5)から、親切にすることの意義では、「お礼や感謝される」「親切にした人、された人互いに気持ちがいい」が多く、他者からの感謝、称賛や自他の充実感に喜びをもっていることが分かる。また、「自分も助けてもらえる」「自分がいい気持ちになれる」という自己の快い感情に意義を感じている子どもも多く、より相手の立場や気持ちを意識したり、集団・社会に考慮したりできるようにする必要がある。(6)から、親切にするための心構えとして、6月に行った同様の調査と比べて、「思いやりの気持ちをもつ」という考えが半数以上占めるなど広がりを見せ、他者への温かい思いを大事にしていることが分かる。

この調査を踏まえ、困っている人に接する際に、相手の立場や気持ちを押し量り、相手にとってよりよい行動や言動を大切にすることを育てるようにしていきたい。そのために、本時では、できなかった経験や理由を想起することで、自分の都合を優先したり、相手の置かれている状況、心理状態にまで考えが及ばなかつたりすることに気付き、自覚できるようにする。また、指導内容の重点化を図り、本主題に関する「相手のためになる (利他)」という心構えを追求できるようにする。さらに、困っている人に対して親切にすることの意義や心構えを「対自分」「対他者」「対社会」の三つの視点で自分の考えや仲間の考えを見つめることで、一層思いやりの心を持ち、親切にすることのよさを多様に実感できるようにする。そして、子ども一人一人に今後の生活に生かしていきたい心構えを明確にすることで、道徳的実践力の向上を図っていきたい。

4 資料について

(1) 資料のあらすじ

寝坊をしてしまったわたしは、アルバイトに間に合うために全力で走って何とか駅に着いた。しかし、定期券を忘れてしまい、乗車券発売機の前に行くがそこには長い列ができていた。いらいらしながらも列の最後に並び、次の番になったわたしだったが、前のおばさんが小銭不足でもたついていた。急いでいたわたしは、遅刻だけはしたくないとの一心から不足分の二百円を入れた。その後、2週間ほど経って、おばさんからわたしはお礼の小さな紙袋を受け取った。自分がした行為を省みて、涙を流すわたしであった。

(2) 資料の分析・子どもの反応予想

場面	分析（価値構造図より）	予想される子どもの反応
1 行列に並び、やっ と次が自分の番にな ったわたし 【心の弱さ①】	a 自分本位な考え(自分さえよければいい) d 他への欲求(他にもすることがある) e 思慮不足(よく考えていない)	・ 少しでも早くしてよ。 ・ やっと自分の番だ。何とかアルバイトに間に合いそうだ。 ・ このまま進んでくれればいい。
2 不足分の二百円を入 れるわたし 【心の弱さ②】	a 自分本位な考え(自分さえよければいい) b 労苦からの逃避(きつい、楽をしたい) d 他への欲求(他にもすることがある)	・ おばさん、早くして。 ・ これ以上待てない。 ・ 遅れるのに比べたら、二百円くらい大したことない。
3 おばさんからお礼 を受け取り、電車の 中で泣くわたし 【意義, 感動】	ア 自己の快感(対自) エ 他者の快い感情(対他) キ 人間関係の向上(対社) ①思いやり ②理解 ③自分事 ④利他 ⑤思慮 ⑧共生	・ おばさんのためにしたわけでないのに申し訳ない。 ・ 自分の事しか考えていなかったのが恥ずかしい。 ・ 相手の気持ちをもっと考えよう。

この資料は、駅の乗車券発売機で自分のためにお金を入れたわたしが、おばさんから感謝のお礼を示され、自分本位な考えを見つめ直し、相手の気持ちを想像し他者のために進んで親切にすることの大切さについて考えを深めることのできる話である。相手の立場にまで考えが及ばず、自己中心的な考えを通す内容は、自己の快い感情に意義を感じる傾向の強い本学級の子どもの実態調査からも身近な内容であり、共感しやすい資料であると言える。また、子どもたちにとって、駅という日常の生活場面との関連が薄い舞台が中心となるため、展開を丁寧に押さえる必要がある。これまでに、道徳の時間に本学級の子どもたちは、相手の立場に立った思いやり・親切について考えてきた。この資料では、今までの資料にはなかった、親切な行為をする人の視点に立ち、自分の都合のみを考えた行為に対して、他者から感謝されるが、自分の中ですっきりしない気持ちの理由を考えることで、思いやり・親切についてより深く見つめることが期待できる資料である。

5 指導に当たって

- 「気付く」過程では、よりよく生きるためにはどんな考えを大切にすればいいかという「自分事の問い」をもつことができるように、自分の経験を十分に見つめさせることが大切となる。子どもたちは、思いやり・親切に関する事前アンケートを基に、困っている人に親切にできたりできなかったりした経験を見つめ、その時の意識と行動の矛盾から問題意識を高めて、「困っている人にもっと親切にするための『大切にしたい考え』は何だろう」という本時を貫く「自分事の問い」をもつことになる。
- 「見つめる」過程では、扱う資料の主人公や一緒に学び合う友達との考えの差異から生まれる「自分事の問い」を大切にす。子どもたちは、「自分も主人公のように考えるのか」「自分と違う考えが他にもあるのか」というような「自分事の問い」を教師の問い返し発問に答えることなどを通してもつことになる。そして、「自分づくりカード」を活用した友達との「学び合い」の中で考えていくことができるようにする。この問いの追求が、本時を貫く「自分事の問い」の答えを見いだすことにつながる。
- 「深める」過程では、「自分づくりカード」に「大切にしたい考え」を表現するという活動を通して、本時を貫く「自分事の問い」に対する答えを明らかにすることとなる。「もっと困っている人に親切にするためには、相手を理解したり、その人のためになる行動をしたりするという考えを大切にしよう」というような自分なりの答えをもつことにつながる。また、見付け出した「大切にしたい考え」を今後の生活のどんな時に生かしていきたいかという道徳的実践意欲の向上を図ることにつながる。そのことは、「自分事の問い」を継続することとなり、新たな「自分事の問い」をもつことになる。
- 「高める」過程では、本時で「自分事の問い」をもち続けて学習してきたことを振り返り、そのことのよさや自分の考えの変容と絡めて実感することとなる。また、「私たちの道徳」をプレゼンテーションソフトで視聴することで、日常生活の具体的な場面と結び付けることができるようにする。

6 本 時

- (1) 目 標 相手の気持ちや状況を推し量りながら、相手のために自分ができることを誠意をもって行おうとする心情を育てる。
 (2) 展 開 ○は教師の言葉掛け △は予想される反応 □は「自分事の問い」 ◆は重点評価項目 ☆はICT活用の留意点

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
(分) 気 付 く (5)	<p>1 相手のために親切にすることができなかった経験について話し合う。</p> <p>これまでの生活の中で、困っている人のために親切にすることができなかったのは、どんなときですか。また、なぜできなかったのか発表しましょう。</p> <p>友達が忘れ物をして困っていたのに貸してあげられなかったです。貸したら自分が遅くなるから。</p> <p>困っている人のために、親切にすることができるかな。どんな考えがあれば親切にできるだろう。</p> <p>困っている人にもっと親切にするための「大切にしたい考え」は何だろう。</p>	<p>○ 実態調査を基に、実践できたときとできなかったときを対比させたり、意図的指名をしたりして自分自身を見つめさせることで、日常経験とのつながりから本主題に関する「自分事の問い」をもつことができるようにする。</p> <p>☆ 電子黒板で資料を視聴することで、資料のあらすじを共感的につかみ、自分と主人公との共通点や違いに着目することができるようにする。</p> <p>○ 発売機に並ぶまでの状況を整理し、気持ちを話し合うことで、資料の主人公に共感できるようにする。</p> <p>○ 問い返し発問を行うことで、主人公と自分の体験を比べたり、結び付けたりして、自分なりの考えや根拠を明確にすることができる。また、「相手のためにする」親切のよさに気付かせる。</p> <p>○ 「自分づくりカード」を使って、三つの視点（対自分・対他者・対社会）で子ども自身が分類した後、ペアで考えを交流することで、友達の考えの差異に気付いたり、大切だと思う考えを広げたり深めたりすることができる。</p>
見 つ め る (27)	<p>2 資料「思いもよらぬできごと」を読んで、わたしの気持ちを中心に話し合う。</p> <p>(1) 発売機に不足分の二百円を入れるわたしの気持ちについて話し合う。</p> <p>わたしはどんなことを思いながら、発売機に二百円を入れたでしょうか。</p> <p>早くして。 間に合わないよ。</p> <p>二百円を入れたわたしの行動は、本当に親切をしたといえますか。</p> <p>自分のために出した二百円だから親切とは違うと思う。 きつい言い方でおばさんも怯えていたから親切ではない。</p> <p>おばさんからお礼をされたよね。それであれば、わたしのしたことは親切だったのではないですか。【問い返し発問】</p> <p>いいえ。相手のためにした行動ではないから親切ではないと思います。</p> <p>(2) おばさんからお礼を言われ、電車の中で涙を流すわたしの気持ちについて話し合う。</p> <p>おばさんからお礼を言われたわたしは、電車の中でどんなことを考えていたと思いますか。</p> <p>対自 ・自分のためにしたことなのに お礼を言われてうれしい。 ・思いやりの心をもとう。 対他 ・おばさん、ありがとう。 ・困っている人のために進んでできることをしよう。 対社 ・みんなで助け合っていく社会にするために、互いのことを考えていこう。</p>	<p>◆ 相手のために自分ができる親切の意義についての考えを広げたり深めたりしているか。</p> <p>【「自分づくりカード」・発言】</p> <p>○ 「大切にしたい考え」を本時の主題に関する考え（相手のためになる）を書いているものを取り上げることで、ねらいとする考えを全体に広げることができるようにする。</p> <p>○ 「自分づくりカード」を並べて自分の考えの変容を確認することで、考えの成長を実感できるようにする。</p> <p>☆ 「私たちの道徳」の資料を電子黒板で提示し、困っている人の親切について考えさせることで、実践意欲の高揚につなげることができるようにする。</p>
深 め る (8) 高 め る (5)	<p>3 これまでの自分を見つめ、相手のために思いやりの心をもち、親切にすることに関する「大切にしたい考え」と生活を結び付ける。</p> <p>これから、困っている人に対して自分が進んで親切にするための「大切にしたい考え」は、どんな考えですか。</p> <p>私は、「相手のために、自分がどうすればよいか考える」という考えを大切にしたいです。 ぼくは、「相手の気持ちや状況を思いやる」という考えを大切にしたいです。</p> <p>「相手のためになる」という考えを今後の生活のどんな時に思い出そうかな。</p> <p>どんな時に思い出せるかな。</p> <p>4 資料「私たちの道徳」を視聴し、困っている人のための親切について考える。</p>	<p>○ 「大切にしたい考え」を本時の主題に関する考え（相手のためになる）を書いているものを取り上げることで、ねらいとする考えを全体に広げることができるようにする。</p> <p>○ 「自分づくりカード」を並べて自分の考えの変容を確認することで、考えの成長を実感できるようにする。</p> <p>☆ 「私たちの道徳」の資料を電子黒板で提示し、困っている人の親切について考えさせることで、実践意欲の高揚につなげることができるようにする。</p>